

資料 1

第 1 回多治見市第 7 次総合計画審議会 会議録	
日 時	平成 27 年 9 月 30 日（水）午後 1 時 00 分～午後 3 時 00 分
会 場	産業文化センター 3 階大会議室
出席委員	牛込進会長、市原好二委員、西尾英子委員、鈴木正夫委員、中西康委員、 美濃和勝文委員、足立喜美子委員、渥美光一委員、白石真美委員、古川芳子委員、 糸井川晃委員、坂崎金次委員（委員 17 名中 12 名出席）
欠席委員	遠藤由美委員、小林甲一委員、水野美代子委員、草野慎一委員、野田泰弘委員
事 務 局	古川雅典多治見市長、水野企画部長、桜井企画防災課長、岩島課長代理、 長谷川課長代理、水野総括主査、山内総括主査、御前主査、林主査
傍 聴 人	2 名
会議録要旨	
1 開会	
2 市長あいさつ	
市長 多治見市の総合計画の特徴は、財政とのリンクである。実現性のない総合計画は作らず、総合計画で定めたことは全て実行する。 出生率の低下と若い女性が転出してしまうことから消滅可能性都市と指摘された。消滅可能性都市を脱却する必要がある。 第7次総合計画のキーワードは、女性・子どもである。働きながら子育てできる社会の実現に向け、企業経営者や働く女性などからなる女性活躍会議を開催した。また、高校生による会議の開催や小中学生によるアンケートを行い、大人になったときに多治見に帰ってくるために何が必要かを洗い出した。 市議会では、全議員（24 名）による特別委員会を設け、議論を行っている。 こうした議論により策定した第7次総合計画（案）について、意見を伺いたい。	
3 委嘱状交付	
4 会長の互選について	
事務局 会長に立候補はあるか。 《立候補なし》 事務局 事務局案として、多治見商工会議所会頭で株式会社 TYK 代表取締役会長の牛込進委員を提案する。 《拍手：承認》 会長 第 7 次総合計画期間である平成 28 年度からは、東濃地方にとってリニア開通に向けた重要な期間である。	

多治見市の行政運営は、市長のリーダーシップにより 1 歩ずつ前進しており、大変心強いと感じている。

多治見市は恵まれた都市である。J R や高速道路など交通の要所であり、災害にも強い都市である。また、文化・伝統もあり、人間国宝を 4 人も輩出することができた。この恵まれた環境をさらに良くするためには、文化のブラッシュアップ（磨き上げ）が必要である。美濃焼だけでなく、絵画や音楽の発展にも注力する必要がある。

若い世代が住みたいまちにするためには、教育環境の充実が重要だと考える。現在でも多治見市の教育水準は十分高いが、今後は岐阜県 No.1 を目指してほしい。企業誘致により多くの企業が多治見市に進出したが、従業員の皆さんに多治見市に住んでいただくためには教育環境の充実が重要である。そのためにも、大学や美濃焼の伝統を生かしたワールドマテリアルセンターを設置したい。大学は都心回帰と言われるが、多治見駅南再開発事業でできる施設内に作ることができれば、実現性も高いと考える。

また、この地域は防災面で優れており、首都機能の一部を移転させることができれば、多治見市が消滅可能性都市になることはあり得ない。

多治見市の将来が明るくなるような総合計画にしていきたい。

5 諮問 諮問内容を市長が朗読し、牛込会長へ諮問書を手渡す。

6 職務代理者の互選について

会長 多治見市総合計画審議会条例第 5 条第 3 項の規定に基づき、職務代理者に小林甲一委員を指名する。

7 議題（１）：第 7 次総合計画の策定について

事務局 資料 5 に基づき、総合計画の説明
資料 6 に基づき、市民参加の経過について説明
資料 7 に基づき、基本構想（案）、基本計画（案）について説明

議題（２）：審議（質疑応答）

会長 各委員の発言を求める。

委員 基本計画には、多くの市民のための事業が記載されているが、知らない事業が多く驚いた。

生産年齢人口が減少し厳しい財政状況下ではあるが、障がい者が地域で暮らしていくことの難しさや、障がい者の親の高齢化に伴う生活不安など福祉政策の重

要性について考えていただきたい。

委員 私の住むホワイトタウンでは、買い物に不便を感じている高齢者がいる。地域で買い物支援の取組を行っているが、新しくボランティアに参加していただける高齢者が少ない。原因として、定年延長や定年退職後の再就職などが考えられるが、高齢者がボランティア活動に参加する取組を広めていただきたい。また、ホワイトタウンの取組を他の地域に広めていただきたい。

委員 若者が働きたくなるような魅力ある職場を、多治見市内につくっていただきたい。経営者にも、若者が働きやすい職場環境づくりに取り組んでいただきたい。

教育面では、学力向上も大切だが、インクルーシブ教育の推進やコミュニケーション能力を向上させることも重要である。

委員 基本構想に掲げられた5つの政策の柱は、全て重要である。各政策を推進する際に、高齢者同士や子育て世帯同士だけでなく、様々な世代が連携できる仕組みが必要である。

委員 基本構想において、7つの基本的な課題と5つの政策の柱の掲載順に意図はあるのか。

事務局 7つの基本的な課題は、少子化が最も重要と認識し、一番にしている。

5つの政策の柱に優劣はないが、第7次総合計画では「子ども」をキーワードとしたため、一番最初に掲げた。

委員 基本計画④安全・安心で快適に暮らせるまちづくりの施策「道路整備」の内容はどのようなか。

事務局 基本計画に沿って説明。

委員 第6次総合計画のレビューをしていただきたい。

福祉においては、地域で支え合うことが重要であるが、地域のきずなが希薄になっている。地域の活動を活発化させるための取組が必要である。

「市民参加の経緯」で説明を受けたが、市議会特別委員会での議論はどのようなか。

事務局 市議会特別委員会での主な議論は、人口減少をどう打開するかが中心となっている。

委員 繁華街は江戸時代に神社の周辺で始まり、明治時代には鉄道が整備され駅周辺が栄え、高速道路が整備されればインター付近が栄え、今はインターネットショッピングが発達し、人が集まることがなくなった。

交通渋滞は、地域の商業に大きな影響を及ぼすと考ええる。多治見市内の個別の渋滞対策ではなく、国道19号線の渋滞対策など全市的、長期的な視点での道路整備が必要である。今後の交通状況によって、商店街の形が変わると考える。

委員 計画全体が読みにくく、どの自治体にも当てはまることが記載されている。多治見市に不足していること、多治見市がやるべきことを明記すべきである。

委員 美濃焼には1,300年の歴史があり、織部や志野で大きく栄えた。その中でも西浦焼は国内に限らず世界的に広く知られており、大きな観光資源となる可能性が

ある。また、美濃焼にはタイルも含まれ、新たに完成する多治見モザイクタイルミュージアムを活用し、陶磁器とタイルが一体となって美濃焼のPRをしていきたい。

陶磁器意匠研究所は、日本一の研究機関であるとともに、世界的にも名の知れた優秀な機関でもある。卒業後、この地域の商社やメーカーで働くことを望む研究生が多いが、新たに雇用する力が今の窯業業界にはない。今後、どのように窯業業界が元気を取り戻すかが重要である。

会長 今の円安傾向は窯業業界においてチャンスではないか。

委員 小中学校に訪問すると、それぞれの学校ごとに子どもの特性が異なることがわかる。核家族世帯が多い校区、3世代同居世帯が多い校区、窯業が盛んな校区、農業が盛んな校区など、各校区の地域性が子どもに大きな影響を与えている。

PTAと意見交換をする中で、父親の子育てへの関わりが大きくなってきているように感じる。

基本構想のまちづくりの基本方針にある「ひとの“わ”」は重要だと考えるが、丸く収まるだけではなく、外に向かって多治見らしさを発信する考えも持っていたきたい。

委員 今後、東濃への定住を進めるためには、教育と医療が重要である。特に医療については、多治見市民病院と県立多治見病院がある地域がヘルスケアゾーンとして個性を出すことができるのではないか。

地場産業においては、商社が多い多治見市とメーカーが多い土岐市、瑞浪市が連携して東濃地域を盛り上げていく必要がある。観光についても、東濃全体で連携することによって、誘客が進むと考える。今後は様々な分野での連携が重要になると思われ、東濃の中心都市である多治見市には、連携促進に向けたリーダーシップの発揮を期待する。

郊外団地では、高齢化と人口減少が起こっている。郊外団地住民の意向（引き続き郊外に居住するのか、中心市街地等への転居するのか）を把握し、郊外団地への若者定住策など郊外団地の活性化に向けた政策に反映できないか。

商店街の成功事例として四国の丸亀商店街があるが、特徴として所有者と利用者の分離がある。店舗所有者が、営業する意欲のある若者などに店舗を貸すことによって、商店街を活性化させることができるのではないか。

8 その他

事務局 今後の日程は、
第2回 10月8日 PM3:00～PM5:00 市役所本庁舎5階全員協議会室
第3回 10月19日 PM1:00～PM3:00 市役所本庁舎5階全員協議会室
で開催する。

会長 本日の意見に対する事務局の考えを次回審議会で求める。

<会議終了>